

冬の間、固く閉ざされていたイチョウの冬芽が、4月の訪れとともに一斉にほどけ始めました。長い寒さに耐えていた小さな芽は、ある日ふとしたきっかけのように殻を押し広げ、やわらかな新芽をのぞかせます。芽吹いたばかりの葉は、まだ形が定まらず、淡く透き通るような緑色をしています。

しかしその姿はほんの一瞬のことで、翌日には扇形の葉がはっきりと現れ、小さいながらも確かにイチョウらしい形を示します。そこからの成長は驚くほど速く、やがて葉は厚みと色を増し、見慣れた深い緑へと変わっていきます。

この芽生えの時期にだけ見られる、光を含んだような淡緑の輝きは、季節の移ろいの中でもごく短い瞬間のもので、イチョウの樹は、そのわずかな時間だけ、生命がほどけるような透明な春の表情を私たちに見せてくれます。

